

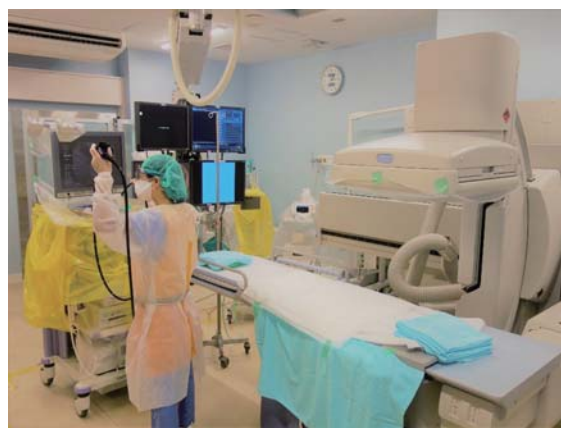
胃カメラ・大腸カメラについて

外来看護師長 中村 明美

当院では、呼吸器疾患、神経難病、重症心身障害を含む小児慢性疾患を特に専門として診療を行っていますが、消化器内視鏡検査にも力を入れて診療にあたっています。今年度からは新たに、消化器内視鏡を専門とする北岡修二先生（日本消化器内視鏡学会指導医・専門医、同学会近畿支部評議員）が毎週木曜日の胃カメラ、大腸カメラを担当することとなり、これまでの浅野昇外科医師、游逸明放射線科医長とあわせ、3名体制で消化管内視鏡検査を実施しています。胃カメラは火曜日を除く月～金曜日の午前に、大腸カメラは月、木、金曜日の午後に実施しており、これまでよりも多くの検査件数への対応が可能となりました。コロナ禍においても安全に消化器内視鏡検査を受けていただけるように、日本消化器内視鏡学会の提言や日本環境感染学会のガイドラインに沿って、十分な感染対策を講じて検査を行っております。先生方の診療にお役に立てる症例があれば、ぜひご紹介下さい。



上部消化管内視鏡の様子



胃内視鏡室

胃カメラ・大腸カメラともに、「診療・検査 予約申込書」（当院HP 地域連携室のページよりダウンロード可能 <https://minamikyoto.hosp.go.jp/section/chiikiiryu.html>）に必要な事項を記載していただき、当院地域医療連携室あてのFAXにてご予約ください。両検査とも、検査に関する説明のため、事前に受診していただく必要があります。地域医療連携室より事前の受診予定に関する日程調整をさせていただきます。



胃内視鏡 前処置室



「診療・検査 予約申込書」
ダウンロードページはこちら

栄養管理室の紹介

栄養管理室長 右野 久司

当院栄養管理室は、管理栄養士3名、調理師1名、事務員1名の職員と、調理業務委託業者で構成されています。入院患者さんへの食事提供を担う調理業務に関しては、令和元年4月より全面委託となっています。

業務の内容は、栄養管理業務と給食管理業務に大別されます。

栄養管理業務としては、入院及び外来患者さんの疾病に対応した栄養食事指導によって、患者さんの食生活改善のサポートを行っています。糖尿病や高血圧、脂質異常症や肥満症などの生活習慣病だけでなく、嚥下(飲み込み)障害や栄養障害(低栄養や体重減少)、食思不振など、内容は多岐にわたっています。

また、入院患者さんの栄養不良やその他諸問題を改善するため、栄養サポートチームを始めとするチーム医療へ参画しています。栄養サポートチームは、医師、看護師、薬剤師、言語聴覚士、管理栄養士で毎週病棟ラウンド・カンファレンスを行っており、多職種で情報交換を行いながら、入院患者さんの栄養状態の改善を目指しています。



栄養サポートチーム カンファレンス

給食管理業務では、入院患者さんの治療に繋がる食事を、おいしく、食べやすく、安全に提供することを目指し、献立作成から食材購入を病院職員、調理、配膳、食器洗浄を委託職員が行っています。

当院では、季節に合わせた行事食を随時提供していますが、それとは別に毎月1回、旬の食材をふんだんに使った日常のメニューにはない料理を「特別メニュー食」として提供しています。1食300円の実費を追加徴収する形で、当初は治療上制限のない普通食を食べておられる患者さん限定で提供していましたが、エネルギーや糖質、塩分などの制限が必要で治療食を食べておられる患者さんにも、月に1回だけでも食の楽しみとして提供できないか検討した結果、希望される方へは、主治医の許可を得ることで提供できる体制を整え好評を得ています。



特別メニュー食

その他では、摂食嚥下機能に問題があり、経口摂取が困難な患者さんで、胃瘻から栄養を摂っている患者さんの食事として「胃瘻注入食」を提供しています。胃瘻からの栄養補給としては、医薬品又は食品の経腸栄養剤を注入する方法もありますが、当院では、胃瘻からであっても、可能な限り日々の食事を摂取していただきたいとの考えから、主食であるミキサー粥と副食としてのおかず数品で構成した胃瘻注入食を提供しています。おかずの粘度を調整する際には、出し汁等ではなく、主食として予めサラサラに調整したミキサー粥を加えて行うことで、栄養価の低下を極力抑えた注入食に仕上げられています。また、当院独自のゲル化剤の使い方によって、チューブを通過しやすいなめらかな仕上がりになっています。

今後も、患者さんの栄養改善に繋がる栄養管理業務、給食管理業務を、栄養管理室一丸で取り組んでまいりたいと思います。

結核研修会について

経営企画室長 宮澤 純一

令和3年度 結核研修会（薬剤師、保健師、看護師、コメディカル向け）を開催しました！ 参加者58名（院外32名、院内26名）

当院の結核に関する経験・知見を地域の医療従事者の方にお伝えするために、医師向け研修とコメディカル向け研修を毎年1回開催してきました。令和2年度は新型コロナの感染拡大を受け、コメディカル向けについては開催ができなかったのですが、今年度はWEBにすることで開催に至りました。



参加施設: 京都府健康対策課, 山城北保健所, 京都市中京保健福祉センター, 高槻市保健所, 大阪市旭区保健福祉センター, 日本バプテスト病院, 京都市立病院, 洛西ニュータウン病院, 奈良東九条病院, 自衛隊舞鶴病院, 京都久野病院, 京都府立医科大学附属病院, かくさい病院, 大和高田市立病院, 佐藤医院 在宅医療部, 洛和会音羽病院, 西陣病院, 医療法人松徳会松谷病院, 和歌山病院, 奈良医療センター, 舞鶴医療センター, 敦賀医療センター, 東近江医療センター

参加職種: 医師、保健師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、栄養士

○結核の基礎知識 (13:05 ~ 14:05)

京都予防医学センター専務理事鈴木先生からは「結核の基礎知識」をテーマに、結核の歴史的経緯と現状その他関連知識をとてとても分かりやすく紹介いただきました。全ての職種の方がとても興味を持てるお話で、事後アンケートにおいても「もっと聞いていたかった」「わかりやすく聞きやすく、もっとお話を聞いていたい気持ちになりました」という声を頂きました。

○「結核患者発生時の対応と服薬支援の実際」(14:10 ~ 14:45)

京都府山城南保健所保健師松本先生からは「結核患者発生時の対応と服薬支援の実際」をテーマに京都府下の結核感染状況や患者さんが結核に罹患した際の各種支援内容を紹介いただきました。事後アンケートでも「保健師の勉強会は今回が初めてであり、コロナ禍でDOTSカンファレンスも中止しているので、保健師と会う機会も少なく、大変勉強になりました」との感想を頂きました。

そして当院からは竹松副薬剤部長、五十嵐臨床検査技師、横田看護師が各職種の視点から講演しました。以下にアンケートで頂いたコメントを紹介します。

○抗結核薬について (14:45 ~ 15:10) 竹松副薬剤部長

- ・多剤併用の理由が理解できた
- ・添付文書と実際の違いなど現場の具体的な現状が含まれており大変勉強になりました。

○結核菌の検査 (15:10 ~ 15:30) 五十嵐臨床検査技師

- ・永久保存版にしたいくらい、分かりやすかった。
- ・患者や家族療養指導を行う中で検査の部分は説明が難しいことが多く、どう伝えたらわかりやすいのか迷う部分もあったのですが、今回の研修での話は分かりやすく、今後の指導に取り入れていこうと思いました。

○結核患者の看護・事例紹介 (15:40 ~ 16:25) 横田看護師

- ・実際の事例をもとに、どのような支援を行ったのかを知ることができ、イメージしながら事例を聞くことができたため、大変分かりやすかったです。

閉会挨拶で佐藤副院長より参加者に対して以下コメントがありましたのでご紹介します。

「他の疾病は本人が元気になれば終わりだが、結核は治りきるまでやる。緩めると、途中で脱落再発し、薬剤耐性を持った結核が増えてしまう。日本は結核予防法のもと治療を進め、60年70年たった薬剤でも耐性率が5%程度だが、中国ロシア等では耐性率が半分程度になっている。なぜ結核は治療を完遂するまで頑張るのか、それは結核を撲滅したいから」

今後も当院の結核に対するノウハウをお伝えする場を定期的に設けたいと思います。この会にご参加いただきました方々、分かりやすい解説をしてくださいました講師の先生方。そして開催にあたりご支援を頂きましたみなさまに、心よりお礼申し上げます。どうもありがとうございました。



坪井院長（最右）、佐藤副院長（最左）と講師の先生方



京都予防医学センター専務理事
鈴木先生のWEB講演風景

地域医療に力を傾けておられるみなさまをご紹介します

すべての地域の人が、生活をたもつ、健康をたもつ、笑顔をたもつ支援をします。

訪問看護ステーション たもつ 京田辺



訪問看護リハビリステーションたもつ京田辺です。

令和3年5月に開設し、1年を迎える事となりました。木津川にかかる山城大橋の西側に拠点を置き、京田辺市、城陽市、精華町、宇治田原町、宇治市で笑顔を届けております。

ロゴマークに込めた思いは、利用者や医療者、福祉職の「人」をモチーフに当ステーションの理念である「地域のすべての人が生活をたもつ、健康をたもつ、笑顔をたもつ支援をします」を表現しています。そしてすべての人を角のないリボンでつなげることで地域のすべての人のつながりを、それぞれの色が重なり合うことにより美しい色となることを表現しました。

多くの地元出身のスタッフで構成され、地域に密着した事業所です。看護師、理学・作業療法士が在籍していることで、医療、介護ともに幅広い援助を行っていく事ができます。スタッフ一人一人が利用者様に対して感謝の心を忘れず、日々ケアを行っております。また利用者、家族の意思を尊重したケアを提供できるように毎日カンファレンスを行い、利用者様に寄り添い丁寧なケアをご提供させて頂くことができます。

ホームページ、フェイスブック随時更新しています。是非ご覧ください。

- 京田辺市草内一ノ坪21-16
- TEL 0774-29-9096
- FAX 0774-29-9097
- 営業日：365日
24時間サポート体制
- 訪問エリア
京田辺市、井手町、城陽市、宇治田原町、精華町



HP



FB

神経難病の在宅医療

ちゅうしょクリニック

非常勤医師 端 祐一郎先生



ちゅうしょクリニックで神経難病の訪問診療をしております端（はし）と申します。

京田辺市（昔は田辺町でした）で生まれ育ち、平成21年に京都大学を卒業後、京大病院や京都医療センターで働いておりました。

その頃より、京都市内まで1時間以上かけて通ってこられる神経難病患者さんを見るにつけ、京都南部地域の脳神経内科医の少なさを実感し、何とかしたいと思っておりました。

そして、大学の先輩である中所英樹先生の力を借り、令和3年7月より神経難病の「訪問診療」を開始することができました。

訪問診療という制度では月2回、定期的に患者さん宅を訪問し診察を行います。（現在は土曜日に訪問しております）

また、訪問看護ステーションとも協力し、24時間対応で神経難病患者さんをサポートします。

より多くの患者さんと長く付き合っていければと思っております。

神経難病で在宅医療を希望される方は、ぜひ一度ご相談下さい。

- 京田辺市山手西2丁目2-10
日東センタービル2F
 - TEL 0774-68-1002
 - 訪問診療：土曜日午後
 - 訪問エリア
京田辺市、精華町、城陽市、井手町、木津川市、八幡市
- ※上記エリア以外もご相談ください

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
午前9:00～12:00	●	●	●	●	心療内科	●	/
午後16:30～19:00	●	心療内科	●	●	/	/	/



外来のご案内

外来看護師長 中村 明美

当院の外来は、呼吸器科・脳神経内科・小児科を主とする 15 の診療科を標榜しています。呼吸器科は、一般の市中肺炎や他院で治療困難であった難治性肺炎等の急性呼吸器感染症、肺結核症および肺 MAC 症を中心とする肺非結核性抗酸菌症などの慢性呼吸器感染症、COPD や肺結核後遺症などの慢性呼吸不全（在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法、呼吸リハビリテーション、急性増悪時の呼吸管理を含む）、肺癌（診断、手術前評価、化学療法、準終末期～終末期医療）、膠原病肺や特発性間質性肺炎などのびまん性肺疾患、気管支喘息、睡眠時



発熱外来

無呼吸症候群等の患者さんに対応しています。脳神経内科は、頭痛、めまい、四肢のしびれ、歩行障害といった頻度の高い症状のほか、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症などの神経難病、認知症などの高次脳機能障害、脳、脊髄、末梢神経、筋を侵す様々な神経疾患の患者さんに対応しています。とくに高齢者に多いパーキンソン病では薬物導入や薬物調整を行い、病診連携を図りながらフォローしています。小児科はしばしばみられる子どもの急性疾患に対応しているほか、アトピー性皮膚炎や気管支喘息、食物アレルギー等のアレルギー性疾患、遷延する咳や喘鳴、小児結核など子どもの呼吸器疾患、肥満・やせ、低身長、思春期早発・遅発などの成長関連疾患、てんかんや発達障害など小児神経疾患、起立性調節障害を含む小児心身症、不登校、医療的対応が必要な重度障がい児（者）を対象とした全身管理などについて、特に専門的な対応を行っています。小児予防接種外来（毎週火曜日・木曜日午後；要予約）では一般のワクチン接種の他、アレルギー等の基礎疾患を持つために特に慎重な配慮が必要なケースや海外渡航前のワクチン接種にも積極的に取り組んでいます。コロナ禍の状況において開設している発熱外来では、受診時の導線にも十分に配慮するなど、院内感染防止対策の徹底を図っています。また、



入退院支援センター

呼吸器内科と脳神経内科では新型コロナウイルス感染症に罹患後、後遺症に悩んでおられる患者さんの診療も行っています（かかりつけ医からご紹介による予約診療で対応しています）。入退院支援センターでは、入院による検査・治療が必要となった患者さんが安心して入院して頂けるように、入院生活・検査内容についての説明や服薬内容の確認、退院後の生活に対する心配なことを伺い、入院中においては地域連携室と病棟、外来で在宅の支援体制を整えられるように支援しています。

医師紹介

小児科 医師 幸伏 寛和 (こうぶし ひろかず)



この度はたいへんお世話になります。幸伏寛和と申します。今年で医師9年目で、大学院1回生の病棟dutyとして4月から当院小児科に着任しました。昨年度は大学病院に勤務しておりました。

南京都病院小児科は小児科の中でも入院患者がたいへん特徴的で、小児科医になってから自分よりも年上の方を診るのは初めての経験でした。入浴介助など肉体労働も多く、着任1か月で早くも2kg痩せることができました。

南京都病院の勤務を通じて、多くのことを学び、かつ体を鍛えて健康的なボディになるのが目標です。よろしくお願いたします。

小児科 医師 樋口 徹 (ひぐち とおる)



医師6年目の樋口です。2019年より小児科研修をしております。

これまでは京大病院、滋賀県立小児保健医療センター、兵庫県立尼崎総合医療センターで研修しておりました。このほど1年間、当院にて研修させていただきます。

医療ケアが必要な患児・患者さんの診療にはこれまでも親しんでおりますが、長期入院を中心とした当施設の特徴に則して感染症の診療、予防接種などの業務を担当して参ります。

小児科は総合診療であり、院内の様々な診療科の先生方やコメディカルスタッフの皆様、さらに院外の関係機関の皆様にもお世話になる場面も多いかと思っております。何卒よろしくお願いたします。



今後の紙面の参考にアンケートにご協力ください。左のQRコードからアクセスし南京都病院ニュースを読んだご意見感想をお寄せください。

交通のご案内



- 近鉄京都線 新田辺から 京阪宇治バス約15分
- JR学研都市線 新田辺から
- JR奈良線 山城青谷から 徒歩20分

各駅より送迎車あり

診療科のご案内

- 内科
- 脳神経内科
- 呼吸器内科
- 消化器内科
- 循環器内科
- 小児科
- 外科
- 整形外科
- 呼吸器外科
- 皮膚科 (入院のみ)
- リハビリテーション科
- 放射線科
- 心療内科 (入院のみ)
- 歯科 (入院のみ)



独立行政法人国立病院機構

南京都病院

(当院は在宅療養あんしん病院に登録しています。詳しくはかかりつけ医にご相談ください)

〒610-0113 城陽市中芦原11番地
TEL.0774-52-0065 FAX.0774-55-2765
時間外緊急時 0774-52-0642
URL <https://minamikyoto.hosp.go.jp/>

地域医療
連携室

電話受付時間
8:30~19:00 月~金(土・日・祝日休み)
TEL:0774-52-0191(直通)
0774-52-0065(代表)
FAX:0774-58-0270

予約状況を確認し、その場で受診日時をお返事いたします。
なお、お時間を要する場合は折り返しお返事させていただきますので、ご了承下さい。

E-mail: 407-renkei@mail.hosp.go.jp